

開催状況報告

(一社)日本免震構造協会はこれまでも国土交通省の補助事業を活用して、各地で我が国の耐震・免震技術の普及を図るためのワークショップを開催してきましたが、令和元年度は東南アジアのフィリピン（マニラ）、南米のエクアドル（キト）とペルー（リマ）、中央アジア・コーカサス地方のアゼルバイジャン（バクー）において、それぞれ耐震・免震ワークショップを開催しました。

各ワークショップでは、日本免震構造協会の和田章会長から日本の免震建築の概要や最近の地震被害を踏まえた建築物の地震対策の新しい考え方についての講演があり、国土交通省からも石原晃彦建築国際関係分析官が日本の建築規制と耐震施策について説明をしました。そのほか日本側からは、それぞれ以下のような内容の発表がありました。

- ・フィリピン 「地震災害に対する構造設計の事例」、「免震改修と耐震補強」、「免震改修の実施状況」、「持続可能性に寄与する耐震設計」
- ・エクアドル・ペルー 「建築物の自然災害対策実践の事例」、「免震制振システムの事例」、「高層建築物の長周期地震動対策」、「日本の免震構造の開発」
- ・アゼルバイジャン 「世界の免震建築の現状」、「地滑り災害と早期警戒」、「積層ゴムの耐久性」、「建築物の自然災害対策事例」、「免震制振技術の適用事例」、「超高層建築物における制振構造の適用事例」、「持続可能性に寄与する耐震設計」

また、開催地側からも、フィリピンでは政府建物への免震システムの適用事例について、エクアドルでは耐震設計の事例や地震マイクロゾーニング等について、ペルーでは免震建築の基準や免震建築の事例等について、アゼルバイジャンでは地震リスク分析やバクーにおける耐震設計の事例等についての発表がなされました。

フィリピン、エクアドル、ペルー、アゼルバイジャンのいずれの国においても、地震災害をはじめとする自然災害が多いこともあり、各ワークショップには現地の政府関係者や学識者、民間技術者など多くの方々に参加されました。また、日本の建築技術や制度に対する質疑応答も活発になされるなど、我が国の地震対策に対する関心の高さが伺われ、今後の我が国の関連技術や製品の進出の可能性も感じられました。

<各ワークショップの様子>



フィリピン（マニラ）



エクアドル（キト）



ペルー（リマ）



アゼルバイジャン（バクー）